

移住者と地元住民から生まれた プロジェクト「道後オンセナート」

「ココロ潤う。おんな一人旅に人気の温泉地ランキング（楽天トラベル）」では4年連続で1位、「温泉総選挙2016 女子旅部門」でも1位を獲得するなど、近年、道後温泉は「女子旅の聖地」として各メディアに取り上げられることも少なくない。かつては社員旅行や慰安旅行など団体の観光客がメインターゲットとされていたが、これらランキングに裏づけされるように以前に比べ利用客層に大きな変化が見られる。今回ご紹介する「道後オンセナート」もその立役者のひとつである。道後の新たな風として注目されているこのプロジェクトについて紐解いていきたい。

Uターンと地元住民による アートプロジェクト

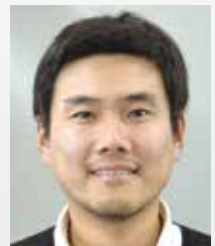
初年度「道後オンセナート2014」
として開催されたこのプロジェクトは、
そもそも道後温泉本館が改築120周年
の大還暦を迎える記念としてスタート。
当時、瀬戸内国際芸術祭や別府温泉など
他県でのアートによる地域活性化の事例
が活発になっており、一部の道後関係者が



蛭川美花 「道後温泉本館インスタレーション」 道後オンセナート2018より
©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery/Dojo Onsenart 2018

それらを見聞きすることで、大還暦イベ
ントをアートで盛り上げられないかとい
うアイデアに繋がっていく。

その後、松山市や道後温泉旅館協同
組合や道後商店街振興組合、大学の教
授などから構成される道後温泉本館改築



えひめ移住
コンシェルジュ
板垣 義男

120周年記念事業実行委員会が立ち
上がり、アート事業での実績を持つ東京
の会社と協力しながらブランドデザイン
を描いていった。しかしこの事業は、「地
域を育てる」「地元を盛り上げる人材の育
成」という側面もあったため、実際の運
営などは県外の組織ではなく地元人材の
起用にこだわった。そして、イベント企画
や建築、編集者などの地元クリエイター、
地元NPO 団体からなる「道後アートプ
ロジェクト」が地元サイドの運営を担うこ
ととなった。この「道後アートプロジェクト」
の中心人物の多くはUターン移住者。
地元のいい面・悪い面もより俯瞰して見る
ことのできる「よそ者目線」で、道後の
地元住民とコラボレーションを進めてい
った。

そして、
「アート
にのぼせ
る」とい
うコンセ
プトを掲
げ、いよ
道後



高橋匡太
「ひかりの実」 道後オンセナート2014、
道後アート2015、道後アート2016、
道後オンセナート2018より